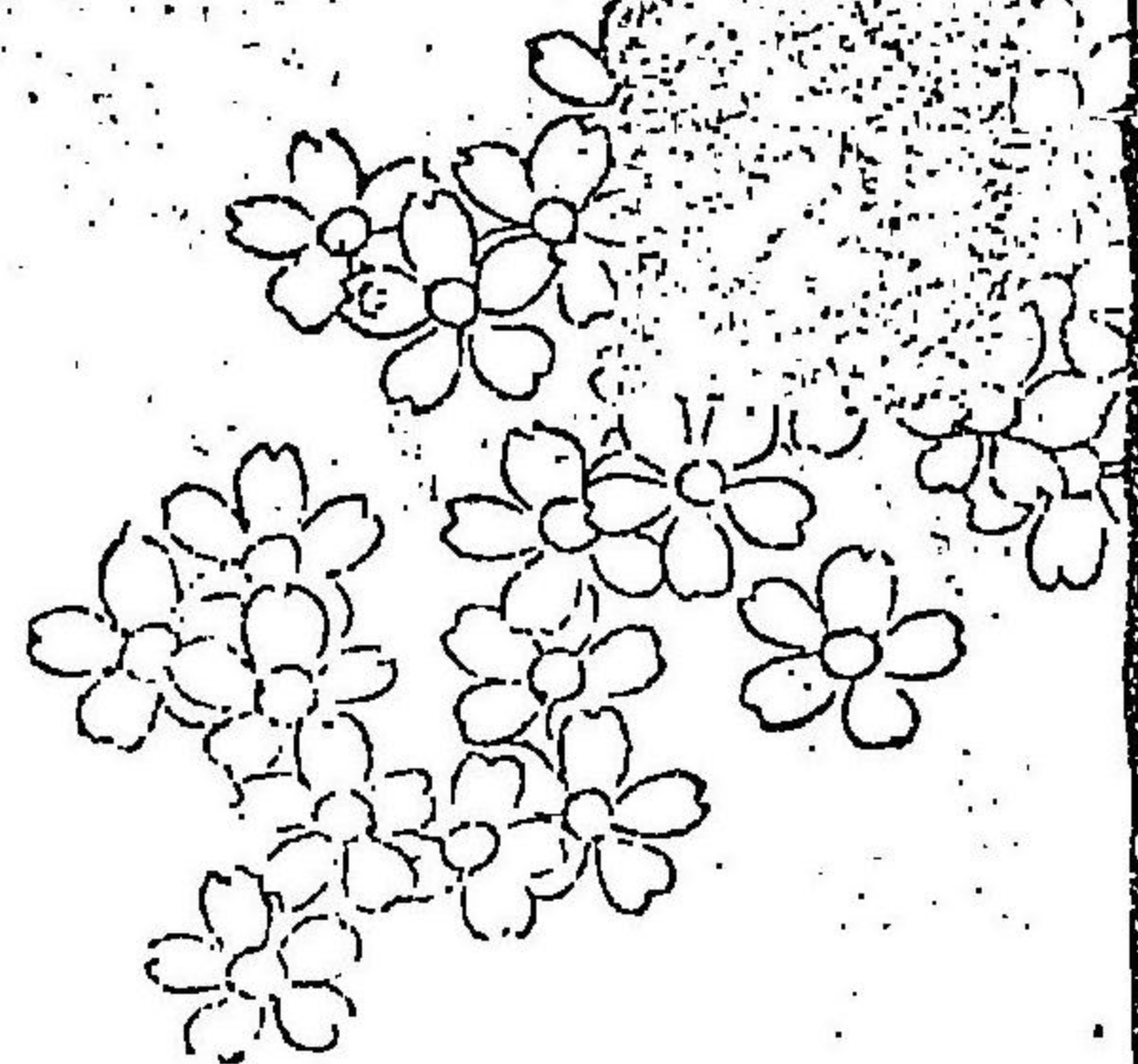


20-90

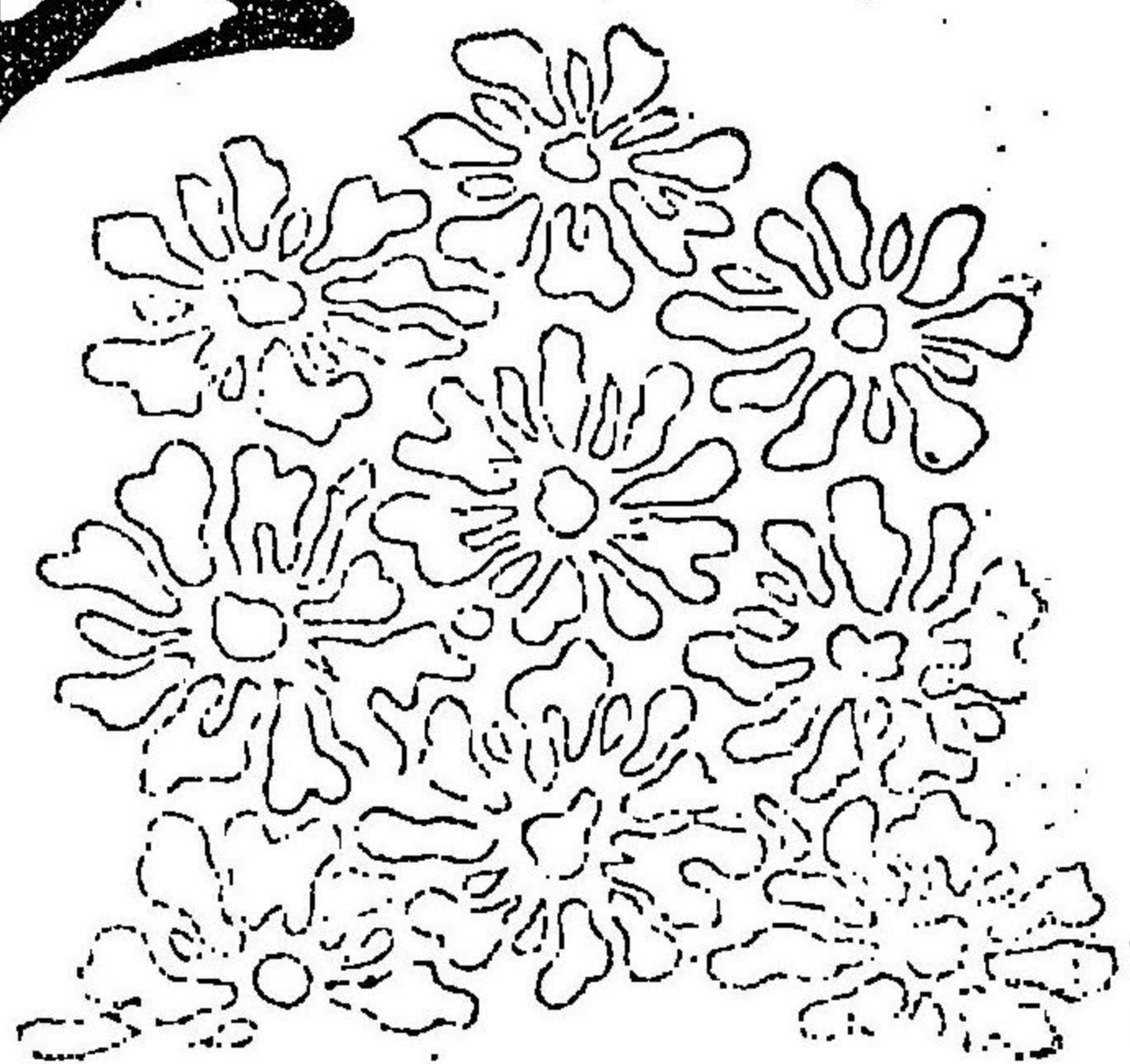
特55
615 3915



足



服

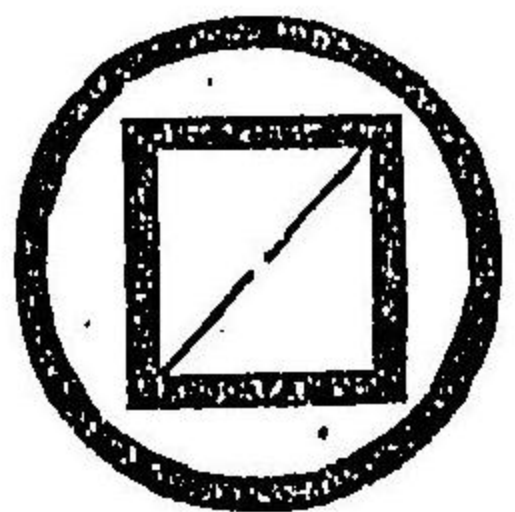


益御多福奉欣喜候

借御承知之系況にて今更申上る迄もなく耳付物も未嘗有
之珍直を現し候へども幸に弊店仕込は義は専ら安底にて
着手仕置候故夫々格安に御高需に應下可申都合に御座候
尚百事一層注意誠實に勉強可仕彌増御愛顧奉冀候頓首

附申現今實地相場の義は左表にて御承知可被下置候

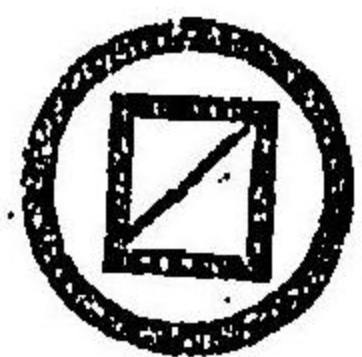
東京市日本橋區田所町廿七番地



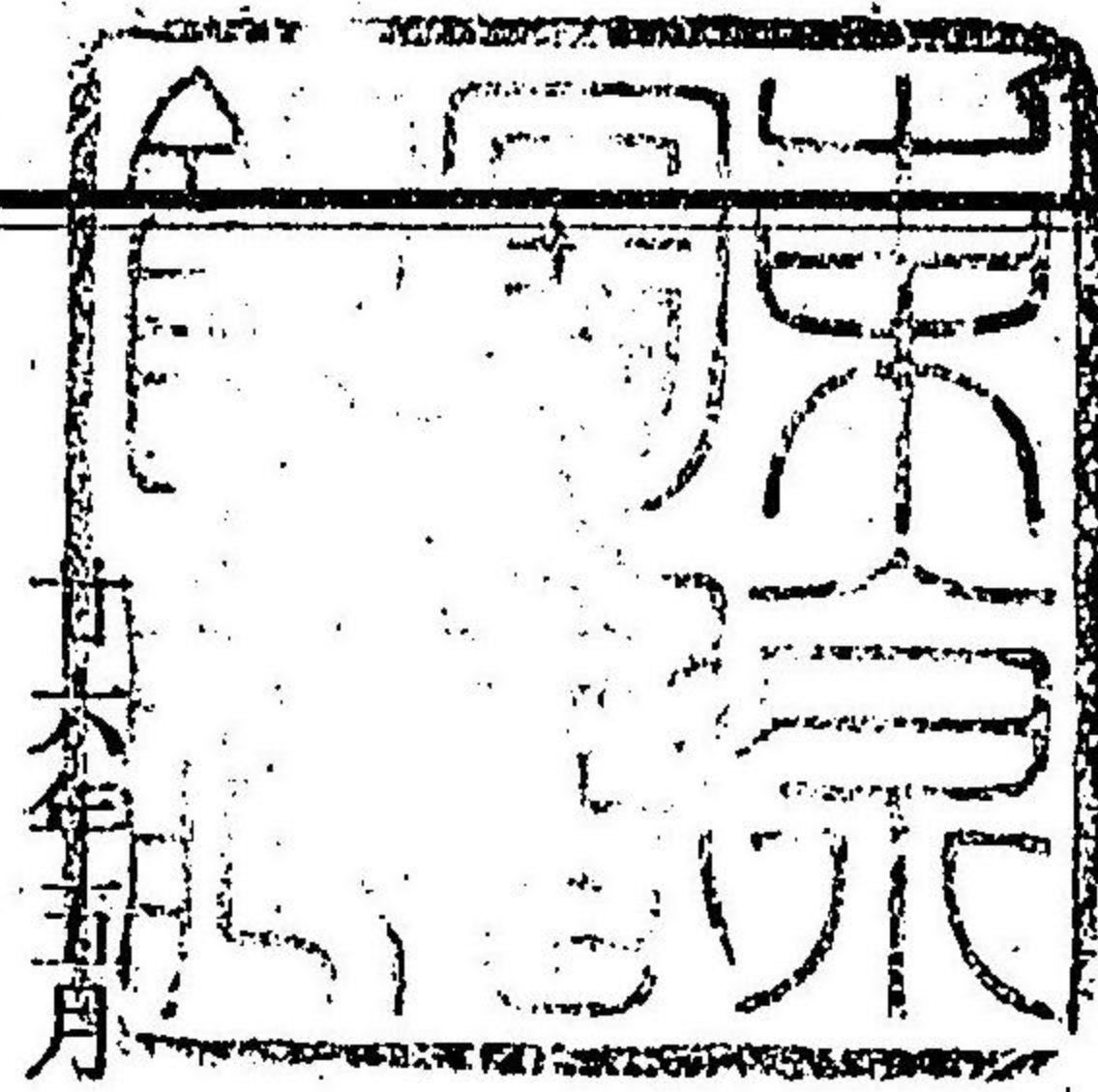
市田彌一郎

京都市上京區柳馬場三條上ル

仕入店



市田彌兵衛



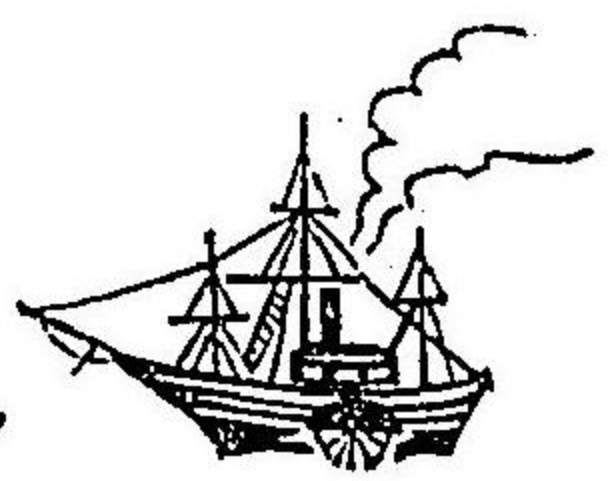
廿六年五月

眷顧各位

(一)

(二)

○の店とさ



横濱の糸況 千百五十弗……

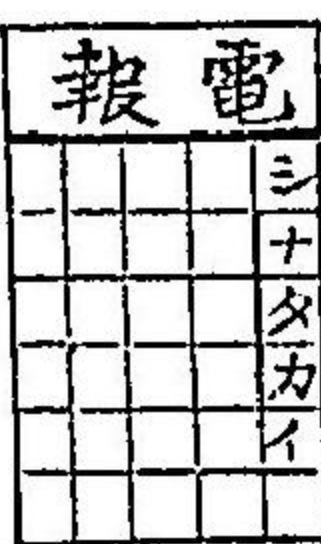
千貳百弗……非常々々……

ナンジャ 西京より 電信

チャ手紙「元方品皆無……」

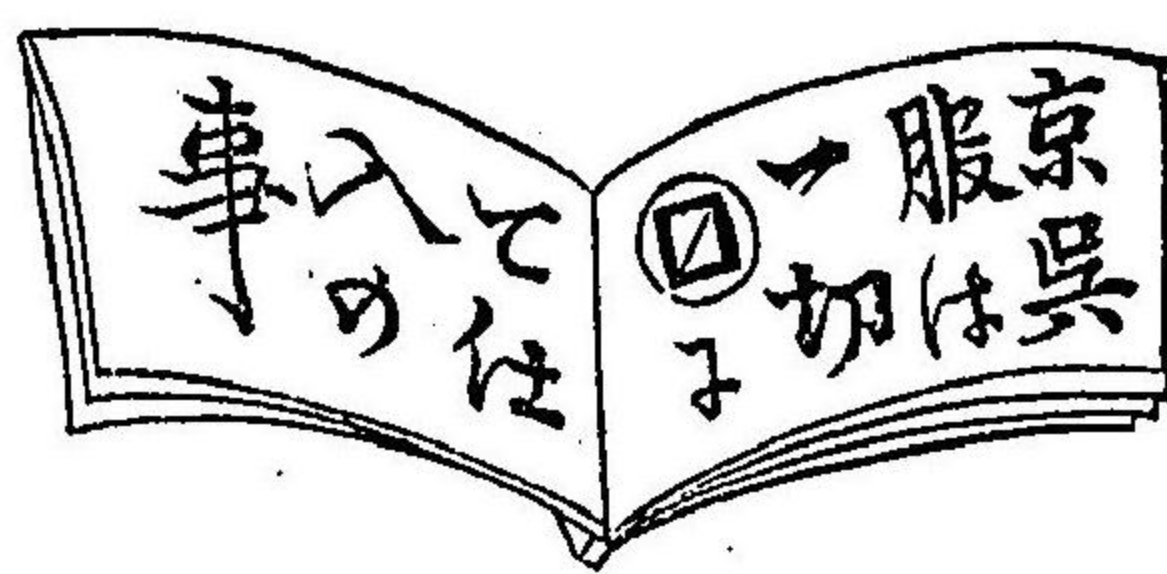
倍々高直實に困却致居候」

イヨ一 是はく



番頭サー〜〜おちらへ御上り……エー
毎々御引立を……跡ムニヤ〜〜

……諸早其後のエライ勢ひです只今
も郵便の電信マ一御覽直段高雄に品あらし
山仕入の花々迷惑し賣場の頗る氣を紅葉で
御客「ナット駄洒落ハ岩清水弓矢八幡掛引か
き店と見込んで安心し仕入よ上つた深切者
じやソ一ラ此注文帳見せてやろう……
ソレ〜注文帳にもコー云ふ事が書いてあ
るよ



(三)

縮緬之類

京呉服相場

白濱 大幅	六五〇五	廻廻	し	迄方	白丹後 中幅	十七圓五十錢	迄方
白濱 中幅	六五〇五	廻廻	し	迄方	同兵兒帶地	十四圓	迄方
同兵兒帶地	廿一四	圓位	迄方	迄方	白丹後 小幅	二圓八十錢	迄方
白濱 小巾	六五〇八	廻廻	し	迄方	白丹後 縮緬	二圓八十錢	迄方
同上銘物	六五〇八	廻廻	し	迄方	白綿 大幅	六圓	前後
天印	六四	廻	し	迄方	濱 大幅色無地	廿六圓	迄方
地印	六二	廻	し	迄方	濱 中幅色無地	廿六圓	迄方
人印	六一	廻	し	迄方	濱 小幅色無地	十五圓七圓	迄方
白濱 三丈	六	廻	し	迄方	丹後 大幅色無地	十一圓	前後
白濱 縮緬	五	廻	し	迄方	丹後 中巾色無地	十一圓	前後
白丹後 大幅	十五圓	前後	迄方	迄方	全 小幅色無地	十六圓	位
	十四圓	前後	迄方	迄方	丹後 縮色無地	三圓五十錢	位
	七圓	前後	迄方	迄方	丹後 縮色無地	四圓五十錢	位
	八圓	前後	迄方	迄方		二圓八十錢	前後
	八圓	前後	迄方	迄方		二圓六十錢	前後

(四)

色紋縮緬中幅	八圓五十錢位迄
鶉皮中幅色無地	七圓前後迄
色山舞縮緬中幅	五圓前後迄
色段縮緬小幅	四圓前後迄
色紋縮緬小幅	三圓前後迄
縮緬頭巾地	一枚分 一圓五十錢位迄 二圓位迄

但去組合せに相成居候

サー〜是れから番外説明委員の受持併し時々發刷の事で別段頓と奇抜ある説明がたまに是が法螺を吹ても苦しくないのなれば何はでもやるけれどもネー(又例的かドウカ淡泊に早く仕舞つて欲しい噫桑原〜)是は騒々しい事……まだ始めないんですよ……マー〜チョンの間じや静〜聞き賜へ〜ナツホン

○借御注意を仰ぎたいのは濱縮緬の暴騰に於けるであり舛ドウモ御承知の高價夫も品が多いといふのならば一時の勢ひですが左張と品がないと来てい舛から實に頑固な相場でありまして中々拔腰の氣味は見へません處で以て

手前の方の例の口上で御座いませんが手機分を昨年より夫々用意致し置ましたから充分の品もタント御座い舛ドウカ至急に御注文を願舛
○前年來非常大喝采を得ました縮緬兵庫帶地(壹本毎に織出の筋あるもの)追々需用の時節とあり舛是れは前格ものも相應に持合居り舛からは又早いか賞襦なり實に物さしを持つ世話もなく尺を切り込む心配もなく至極便利で新奇を兼ねたり用ひて其効能を知るべしでげす

友禪之類

四ッ入青梅友染	三圓五十錢迄
中巾縮緬友仙	八圓位迄
中巾縮緬更紗	七圓位迄
中幅縮緬上代	六圓五十錢前後迄
中幅縮緬板	八圓位迄
中幅縮緬玉糊	八圓前後迄
小巾縮緬友仙	三圓五十錢迄

(五)

紅入、寫し、紅なし、	品柄によりて甚しき相違あり
小巾縮緬更紗	七圓位迄
小巾縮緬帶皮友仙	五圓前後
小巾縮緬上代	四圓位迄
小巾縮緬玉糊	四圓位迄
別小巾縮緬紅櫻ボカシ	四圓五十錢位迄
好小巾縮緬紅櫻ボカシ	七圓前後
小巾縮緬板	三圓位迄
小巾縮緬小紋	四圓五十錢前後迄
紋壁友仙	十一圓位迄
奉書細友仙	六圓位迄
奉書細更紗	五圓五十錢位迄

並に四丈物六丈物あり

直段は右之格合に準じ御算當るべし

絹友仙	三圓五十錢前後
絹更紗	二圓五十錢前後
絹上代	二圓五十錢前後
小巾縮緬帶揚	七圓位迄
友仙更紗	五圓位迄
玉糊其他新趣向物あり	
縮緬裾除ナ地	一枚分
但し組合せに相成居候	二圓五十錢位迄

◎イヨ〜又始まつた友仙の講釋不相變の口調「斯新奇拔優美高尚清楚洒落濃厚淡薄」杯の熟字はモ一止めろ〜と腦天あら攻撃を受くるは必定と此處ハシット辛抱して文句並べず通り過ぎと致し升るが免に角當年の夏友染にハ空前絶後の特妙ある事を御記憶が願たいより御買込が願たい (イヨ〜大正味〜)

絹袖之類

白本羽二重	十二圓位迄
白本羽二重	十七圓位迄

白會代羽二重	三圓五十錢前後 十圓位迄	加賀七丈猩々紅	二圓前後
平絹六丈青味張り	二圓五十錢前後	加賀七丈板	二圓前後
糸好絹白張り 青味張り	二圓五十錢前後	小節絹猩々紅	一圓七十錢前後 二圓五十錢前後
白奉書紬	五七〇廻しより 五九〇廻し迄	小節絹板	一圓七十錢位 二圓二十錢位
全上銘物		糸好猩々紅	二圓五十錢前後 四圓前後
玉印	六三五廻し	糸好板	三圓前後 四圓五十錢位迄
舞鶴印	六二五廻し	本秩父猩々紅	三圓二三十錢 四圓五十錢前後
白當奉書	四圓五十錢前後	名織本紅	八〇〇廻し迄 九〇〇廻し迄
平絹狸々紅	六二廻しより 六五〇廻し迄	名織猩々紅	八〇〇廻し迄 八七五廻し迄
曾代絹猩々紅	六二廻し 六八廻し迄	糸好絹櫻ぼかし	三圓五十錢位迄 五圓位迄
平絹改良染堅牢紅	七〇〇廻し迄	小節絹櫻ぼかし	三圓前後 四圓五十錢前後
曾代改良染堅牢紅	六〇〇廻し迄 六三〇廻し迄	双子絹本京花	七圓前後 八圓五十錢前後
平絹木紅	八〇〇廻し迄 八五〇廻し迄	糸好絹本京花	三圓三四十錢位迄 六圓位迄
平絹板	三圓位迄		

糸好絹新花	三圓位迄	<p>時間とを要し頗る以て小僧さん泣かせダロー忙がしい時に困るダロー品物を踏み付けてメチャクにするダロー杯と云ふ考へから日夜肝膽を煉り脳髓を苦しめ(ドウダカ)種々研究の末無類飛切ゼツピ感々服々なる處の仕方方に改良致し升九即(此處は中)と云ふ札の付着せし場所より剪刀を入るれば(正物を續きの儘壹反宛に疊み合せてしかも壹反宛に綴じ込みあれば仕立は乱れず)即座に半分となつて跡の壹反は其儘疊む世話なしに仕舞込めまするとは扱もく得意先に對する先の先迄吞込だ忠義ものでは御座いませせんか</p> <p>イヨ一勉強屋流石は(エライゾ)</p>
小節根古屋本京花	六圓位迄	
小節絹本京花	二圓五六十錢位迄 四圓前後	
小節絹新京花	一圓九十錢位迄 二圓三四十錢位迄	
糸好絹色無地	二圓五十錢位迄 四圓前後	
本熊太織色無地	二圓五十錢位迄 三圓前後	
別風細太織色無地	四圓前後	
繭紬色無地	三圓五十錢前後	
新繭紬色無地	一圓五六十錢位迄	
紋絹色無地	三圓八九十錢位迄 五圓位迄	
<p>◎一寸裏地ものを當分御見限りの時候にあり升九が併しマダくお寒い處も御座い升のらマンザラ捨てたものでありまんに時に紅絹に付て例の………ホイ又風合の自慢か随分度々の事だよと云わすに聞き給へかしそもや紅絹といつば輕目絹と勿論重目絹に至つてもペロく然として正物を壹反賣つた跡の壹反を疊むに最も手数と</p>		
<p>帶地之類</p> <p>本錦本金襦 曲一尺 六尺 七十錢位迄</p> <p>大紋綴子 曲一尺 六尺 七十錢位迄</p> <p>糸緯縹珍廣帶 九圓前後</p> <p>瓦斯緯縹珍廣帶 六圓五十錢前後</p> <p>糸錦廣帶 七圓前後</p> <p>綿糸錦廣帶 三圓二三十錢前後</p>		

小柳廣帶	宇根織廣帶	セルカン廣帶	紺緞子廣帶	新朱珍廣帶	寶來廣帶	綿立寶來廣帶	蓬來金通廣帶	綿立蓬來金通廣帶	白緞子廣帶	白緞子九帶綿	白朱子廣帶
七圓前後	九圓前後	九圓前後	四圓前後	四圓前後	四圓前後	七圓前後	三圓前後	二圓前後	五圓前後	三圓前後	六圓前後
黑朱子廣帶	黑南京廣帶	小柳兒帶	系綿兒帶	朱珍兒帶	島朱子兒帶	綿糸錦兒帶	綿綾地兒帶	新小柳兒帶	博多兒帶	朱珍兒帶	島朱子三丈物
十三圓前後	二圓七十七錢位迄	五圓九圓位迄	十八圓位迄	三圓四圓位迄	三圓五圓位迄	三圓五圓位迄	二圓四圓位迄	二圓五圓位迄	三圓四圓位迄	四圓五圓位迄	四圓七十八錢位迄

曲尺にて尺五尺七尺八二尺柄行種々有之候

新小柳九寸	蓬萊九寸	紋織九寸	新博多九寸	風通九寸	蓬萊金通九寸	島朱子九寸	黑朱子九寸改良機	改色朱子九寸	別織黑南京九寸	綾地三丈物	糸錦三丈物	倭錦三丈物	錦金襴
二圓五十錢前後	六圓七十錢前後	一圓五十錢前後	二圓四十五錢前後	二圓	一圓五十錢位迄	一圓	四圓六七十錢位迄	二圓前後	九圓前後	八圓五十錢位迄	三十圓位迄	九圓前後	九圓前後
島朱子三丈物	色朱子着尺	綿珍五寸	京博多五寸改良機	○帶地の事はいふ丈けが野暮ですからモ一丈句なしに行きましようと番外の方から急行と来るもソラ餘りに情がないマ一少々でも御断を引止められてマット承知... マ一相場は年中平均といふ様な風故糸高の割合に無茶の變動もありませんが併之本年ハ休機するものが實にデコクにありましたよ夫れはそうとして不相變の極まり文句ですが見れば見る程相溜らんといふハ朱珍です近時倍々其意匠が進んで配色が巧みになつて爲方がよくつて品格があつて實に無類飛切上々吉天天下唯我獨尊であり	○縷子ホンニよく賣れ舛實に面白い程ですよ ○朱珍五寸中々賣れ口よろし上等社會は是ッ非入用の品なり	縮緬中地透絞	四圓六七十錢位迄	九圓位迄					

絞緬之類

四圓六七十錢位迄
九圓位迄

小柳廣帶	宇根織廣帶	セルカン廣帶	紺緞子廣帶	新朱珍廣帶	寶來廣帶	綿立寶來廣帶	蓬來金通廣帶	綿立蓬來金通廣帶	白緞子廣帶	白緞子九帶綿	白朱子廣帶
十七圓前後	九圓前後	九圓前後	四圓前後	三圓五錢	四圓五錢	一圓七錢	一圓五錢	七圓五錢	三圓三十錢	二圓八錢	二圓八錢
後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後
黒朱子廣帶	黒南京廣帶	小柳兒帶	糸綿兒帶	朱珍兒帶	島朱子兒帶	綿系錦兒帶	綿綾地兒帶	新小柳兒帶	博多兒帶	朱珍兒帶	小柳九寸
十五圓前後	二圓七錢	五圓	十八圓	三圓四錢	三圓五錢	三圓五錢	二圓四錢	二圓五錢	三圓四錢	三圓五錢	三圓五錢
後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後
黒朱子廣帶	黒南京廣帶	小柳兒帶	糸綿兒帶	朱珍兒帶	島朱子兒帶	綿系錦兒帶	綿綾地兒帶	新小柳兒帶	博多兒帶	朱珍兒帶	小柳九寸
三圓	二圓七錢	五圓	十八圓	三圓四錢	三圓五錢	三圓五錢	二圓四錢	二圓五錢	三圓四錢	三圓五錢	三圓五錢
後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後

新小柳九寸	蓬萊九寸	紋織九寸	新博多九寸	風通九寸	蓬萊金通九寸	島朱子九寸	黒朱子九寸改良機	改色朱子九寸	別織黒南京九寸	綾地三丈物	糸錦三丈物	倭錦三丈物	錦金襴
二圓五十錢	六圓七十錢	一圓五十錢	二圓四十五錢	二圓	一圓五十錢	一圓	一圓六七十錢	二圓八十錢	九圓三十錢	八圓五十錢	三圓十圓	九圓	九圓
前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後	前後
島朱子三丈物	色朱子着尺	綿珍五寸	京博多五寸改良機	縮緬中巾地透絞	綾緞之類	縮緬中巾地透絞	綾緞之類	縮緬中巾地透絞	綾緞之類	縮緬中巾地透絞	綾緞之類	縮緬中巾地透絞	綾緞之類
四圓七十八錢	八圓	五圓	三圓五十錢	四圓	四圓六七十錢	四圓	四圓六七十錢	四圓	四圓六七十錢	四圓	四圓	四圓	四圓
後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後

綾緞之類

○帶地の事はいふ丈けが野暮ですからモ一丈句なしに行きましようと番外の方から急行と來るとソラ餘りに情がないマ一少々でも御断を引止められてチャット承知...
 マー相場は年中平均といふ様な風故糸高の割合に無茶の變動もありませんが併せ本年ハ休機するものが實にデコにありましたよ夫れはそうとして不相變の極まり文句ですが見れば見る程相溜らんといふハ朱珍です近時倍々其意匠が進んで配色が巧みになつて爲方がよくつて品格がわつて實に無類飛切上々吉天上天下唯我獨尊であり
 ○縞子ホニよく買れ舛實に面白い程ですよ
 ○朱珍五寸中々賣れ口よろし上等社會は是ッ非入用の品なり

染分彩色入	種々取揃	色鹿の子七ッ麻	三圓五十錢前後
小巾縮緬地透絞り	四圓 前後	全上入子	二圓二十錢位
太織地透絞り	三圓二十錢位 三圓五六十錢位	色鹿の子八ッ麻	四圓七十錢位
糸好變り絞り	三圓五十錢前後 五圓 位	全上入子	二圓七十錢位
曾代變り絞り	四圓前後 六圓 位	色鹿の子京極	三圓五十錢前後
立卷絹	二圓五十錢前後 四圓 位	全上入子	二圓二十錢位
太織藍三浦絞り	四圓五十錢前後	鹿の子變り絞り	三圓 前後
色角一枚絞り無金	三圓 前後	全上入子	二圓 前後
色角一枚絞り金入	三圓四十錢前後	色鹿の子九釜	八圓 前後
色角二枚絞り無金	一圓八九十錢位	色鹿の子十釜	九圓 前後
色角二枚絞り金入	二圓一二十錢位	色鹿の子十二釜	十四五圓位
色三浦絞り	三圓一三十錢位 四圓 位	段染鹿の子	二圓前後
色三浦絞り金入	三圓五十錢前後	金入鹿の子	三圓三四十錢前後
色鹿の子入子五ッ麻	一圓六十錢前後	全上入子	二圓二十錢前後
色鹿の子六ッ麻	三圓 位	絹鹿の子四ッ麻	七十五錢前後
全上入子	二圓前後	絹鹿の子五ッ麻	一圓前後

絹鹿の子京極 七十錢 前後
 絹角絞り 七八十錢 位
 ○紅や淺黄や時色や紫色や鼠色何れ桃やら櫻やら愛敬タ
 ップリ澤山の鹿子を見てはコレガマー買はずに何としよ
 うぞいのと唯御贖負を願ふのみ

西陣織物雜種類

白絹七丈五尺物	九圓五十錢 迄	紋織上布貴尺	七圓五十錢 迄
同 六丈物	十五圓 迄	壁上布羽織地	三圓五十錢 迄
白西陣絹七丈五尺物	二十二圓 迄	一樂上布羽織地	五圓五十錢 迄
白絹縮緬七丈五尺物	二十八圓 迄	絹上布羽織地	六圓五十錢 迄
白綾絹羽織地	六圓 迄	紅梅織羽織地	五圓五十錢 迄
練上布一樂織貴尺	六圓五十錢 迄	白官紗羽織地	三圓五十錢 迄
練上布小紋織貴尺	七圓五十錢 迄	色練	三圓五十錢 迄
同 六丈物	十四圓 迄	色絨	四圓八十錢 迄

全上尺七巾	八圓五十錢位迄
全上二尺巾	七圓前後迄
全上二尺五寸巾	九圓四五十錢前後迄
全上三尺巾	十三圓五十錢前後迄
川俣絹	十一圓六十錢迄
川俣絹	二圓五十錢迄
篩絹	四圓五十錢迄
西陣小倉袴地	三圓二三十錢迄
伊勢崎銘撰	九十錢前後迄
伊勢崎銘撰	二圓前後迄
特別織 仙臺平	十五圓
特別織 秋田白畝	十五圓五十錢前後迄
特別織 秋田八丈	十五圓五十錢前後迄
特別織 秋田八丈	十八圓位迄
別織 秋田八丈	十二圓位迄
別織 秋田八丈	三圓四五十錢迄
別織 秋田八丈	二圓四五十錢迄
別織 秋田八丈	四圓五十錢位迄
別織 秋田八丈	七圓位迄

◎此部では誰彼といふより僕に任せて置賜へと眞つ先に飛出したのは京御召と云ふ品のよさそなたな爲方のよさをうな人物否代呂物「願主諸君引續き御眷顧を蒙り難い事」で何分此前半季が最も私の本領で御座い御旨い柄の御最負の◎商店々連りに考案して「シン」どやつて呉ますから左なきだに忙しい私と實に夜晝なしの大運動であり舛特に幼稚であつた私兄弟分の紋織御召を引立引起して咽喉を鳴らす珍柄に幾多婦人を流涎せしむるチュー②の大肌抜き私等御召は誠に愉快ですがドウカ◎考案家が勞性でも出さなけりやよいがと思ふ位ナドト餘談は扱置何卒◎商店の熱心を賞し我々御召の品行と御爲筋のよいのを愛して「シン」ど御仕込を願舛先つ仕込んで御覽なさい我々は寸時も戸棚の中に安閑として居りませぬ直ぐに代金と交換で買られて参りまして御口錢は御帳場にチャント遣して置舛ヨドウカ呉々も澤山の御用向を願舛る事でありませぬであり舛(大ヒヤ)

◎伊勢崎銘撰は近來夏物に一層販路を擴め舛る故京呉服屋にてハ少し慾張つた様ですが本年は非常に熱心に取扱ひ居り舛御上京の場合には其柄の好みの相溜らん旨い處を是非御一覽願ひたいものです「昨日脇で買つて仕舞つた嗚呼コンナ旨い柄が有つたのかコリヤ惜しい事をした」と云はぬ先に……新米物ヒヤなど悔り賜ふなよ○云はずに止め様と思ひしも止められず又飛出し候は薄物類昨年より柄行の心配を段々致し居りましたが眞實

縫摸様表地石持之類

に喰ひ付たい様な珍上無類稀物といふ上柄が生れました一日も早く御上京被下て御取込が願ひたい事であり舛

紹貴尺裾摸様	四圓五十錢迄
同振八掛摸様	六圓五十錢迄
同振八掛摸様	六圓五十錢迄
綸子白黒赤地振留惣摸様	八圓五十錢前後迄
縮緬振袖惣摸様	十四圓位迄
縮緬振袖惣摸様	十一圓前後迄
全上留袖惣摸様	十四圓位迄
全上振袖曙摸様	五圓五十錢前後迄
全上留袖曙摸様	九圓位迄
全上留袖曙摸様	四圓五十錢前後迄
全八掛付曙摸様	八圓前後迄
全八掛付裏摸様	六圓五十錢位迄
全八掛付裏摸様	八圓五十錢位迄
全振八掛兩用摸様	四圓五十錢位前後迄
全振八掛兩用摸様	七圓前後迄

全 南部向兩用曙摸様	八圓位迄
全 秋田向兩用曙摸様	六圓位迄
紋絹 八掛摸様	七圓位迄
奉書 八掛摸様	二圓七十錢位迄
奉書 八掛摸様	三圓五十錢位迄
奉書無地八掛三ツ石持	四圓三四十錢位迄
縮緬一ツ身摸様	二圓五十錢迄
縮緬一ツ身摸様	二圓五十錢位迄
紋絹一ツ身摸様	一圓五十錢位迄
縮緬羽折兩用石持	三圓五十錢位迄
縮緬着尺兩用石持	四圓位迄
全無地八掛付石持	八圓位迄
縮緬小紋石持	四圓七八十錢位迄
縮緬小紋石持	七圓位迄
全両面夏小紋石持	四圓五十錢前後迄
全両面夏小紋石持	七圓位迄
全四丈物八掛付	八圓位迄
全四丈物八掛付	六圓前後迄

色紹羽織地石持	六圓五十錢	迄
同貫尺無地石持	五圓五十錢	迄
保田織羽織地石持	一圓五十錢	前後
奉書羽折地石持	四圓	位迄
斜子羽折地石持	三圓	位迄
紋絹全石持	一圓五十錢	位迄
糸好絹全石持	二圓六十錢	位迄
小節絹全石持	一圓三十四錢	位迄
太織全石持	一圓六十七錢	位迄
	二圓三十四錢	位迄
	二圓	位迄

◎東西く夏物石持の賣行季節御注文の早からん事を單羽織と待つ斗り(洒落るな)

◎一寸乍序申上置きたいのは商品裝飾の事で近來品物に體裁を飾る事ハ段々張込む様な植梅であり舛随分詰らぬ事の様ではあり舛が願みて彼舶來品就中四五錢の煙草拾

錢の石輪杯にハ外部の裝飾に原價の半分迄も掛けてあるかと思ふ位で隨分虚飾に過ぎる嫌ひもあり舛るが免に角賣物にハ花を飾れと云ふ諺もありますから商品の裝飾に於て御同然に追々注意せなくてはならぬ事と存じ升其處で私の方でも精々裝飾に氣を付けますけれども(但實のない品を飾り立てる様な淺間しき事は致しません)ドウカ尙御心付の邊と何分御指圖の程を願ひ升

すき寄せ

西陣織物休機當時の景況

舊臘より本春に掛け生糸代價の騰貴せるは實に空前絶後ぞ云ふべきものにまて新糸の出廻るまで尙は一層高直を見るべしと云へり八百弗の時に於てさへ吾々を一驚を喫したるに追々品不足を告ると云へ千余弗の聲と耳にすもさまで驚かざるまで吾々の耳は高直に馴れたりされば絹織業者の困難も非常なり今少しく舊聞に属すれども西陣織物休機當時の景況を左に記さん過般西陣織業者三百余名は大會を催せし其協議の要項を紋織部の如き生糸騰貴の爲を以て引き合ふべき等なく織物と生糸とに

失を見るべしといふにありしといふ

江州濱縮緬

今長濱の景況を聞くに曰く該地機業家の總數は三百五十戸程なるが休機するもの多く残り十分の一やどの人々は昨年の冬仕込(三百五十圓位)たる糸を所有せるを以て除々織り立て居りたるも之すら漸々原料に欠乏を告げ當時原料(地場糸)を仕入れんとするには四百二十圓位の拂をせねばならず而して織り立てたる生目相場ハ四百五十圓位なるにより其内より職工賃屑系其他の入費を扣除すれば算盤に乗る事思ひもよらず即ち昨年九月頃と比較すれば原料二百圓高なるに生目は漸く百圓高なれば原料製品同價格なり實に詰らぬ咄ありと云々

養蠶談

或人の曰く從來我國の當業者は養蠶を以て一の投機事業の如き感念を有し爲に着實なる實業者は往々之を嫌ふの傾向あり是我邦の土地として養蠶に適せざる地方なきに拘はらず其飼養地は古來其々國に限りしもの如き所以にして今や學理の應用と實地の研究とに依り決して養蠶は投機事業にあらず其飼養の方法さへ全きを得ば取獲に豊凶あるものにあらざるを知れり而して從來の經驗に依れば蠶卵紙一枚に付一石二斗を得るの割合なるに今や

種類	戸數	機數	職工數
紋織	一、三二四戸	四、〇〇二臺	一、二〇〇六人
生紋織	四五九	一、三七七	四、一三一
縮子	四二四	一、二七二	三、八一六
縮緬	三〇一	九〇三	二、七〇九
博多	二四三	七二九	二、一八七
天鷲絨	一〇三	三〇九	九二七
木綿	六六六	一、九八〇	五、五四〇
再製部	四	—	三六
紋機工	四三	—	三八七
合計	三、三七一	一〇、五七二	三、一七六

其他系線業機拵へ及び織物に關する業を執る者を合計すれば五万人とならん
而して紋織を中止するに於て是等多數の職工は衣食住の三者に困難を來すべきを以て之等は各自機業家より米代等を仕拂ふ事となり斯く職工を遊はしめ置ても其方返り利益にして織立を爲せば一反に付き二十錢以上の損

全國年々の收穫高を平均すれば僅らに其半額六斗に過ぎず是れ未だ飼養法の完全せざるに起因するものにて換言すれば教育ある養蠶家少なきの致す所なり左れば養蠶教育を盛んにし完全なる養蠶家を全國に普及せしむるは實に今日の急務なり云々

昨今市場に於ける景況を見るに彼の舊來より飼養し居れる地方より却て静岡縣などの如き新開地の方遠く好況を呈するもの、如し是蓋し從來飼養の地方は單に舊習を墨守して改良する處少なく之に反し新開地方は全く無經驗の者なきば専らに傳習師の指教に従ひ飼養する故却て良果を收むるなり云々

降霜の損害高

本月四五日の霜雪が如何に甚だしかりしやは連日耳にする處なるが聞くが如くんば群馬、山梨、栃木、埼玉、東京、長野、福島、の各縣に於ての損害高は詳細に知るに由なけれを群馬一縣のみにて三百萬圓山梨百五十萬圓埼玉二百萬圓餘なりと云ふれば全國を通じては七八百萬圓の損害なるべしと云ふ兎に角伊佛養蠶は本年上作の模様ある折斯の如き損害は天災と云ひながら歎息の限りなり

小包郵便取扱所の増設

小包取扱の未だ開かれざる地方にして戸數人口等稍多く生産の業亦稍盛なる地に於ては小包郵便の開設を希望し逓信省に向て切に其開設方を請願するもの多く逓信省に於ても夙に爰に見る所ありて公衆の需用を充さんか爲め益々此事業の發達を計り今度新に樞要の地八十七ヶ所を撰擇し六月一日より之に小包の取扱を開設せらるゝ箇所左の如し

國名	局名	國名	局名	國名	局名	國名	局名
武藏	深谷	武藏	所澤	武藏	桶川	武藏	板橋
武藏	府中	武藏	小川	武藏	川越	武藏	上尾
武藏	赤羽	武藏	鴻巣	武藏	川崎	武藏	保土ヶ谷
下總	市川	下總	舟橋	常陸	石岡	常陸	大井
上野	伊香保	上野	富岡	上野	新町	上野	藤岡
上野	安中	上野	磯部	上野	横川	上野	矢板
下野	氏家	下野	今市	下野	石橋	下野	喜連川
下野	黒磯	磐城	矢吹	岩代	猪苗代	陸前	大河原
陸前	稻田	陸前	松島	陸前	小牛田	陸前	涌谷
陸前	古川	陸前	若柳	陸前	佐沼	陸前	登米
陸前	前澤	陸前	郡山	陸前	沼宮内	陸前	水澤
陸前	黒澤尻	陸前	小港	陸前	福岡	陸前	三戸
陸前	野邊地	陸前	浪岡	陸前	黒石	甲斐	上野原
甲斐	猿橋	駿河	吉原	駿河	興津	遠江	金谷
遠江	中泉	尾張	前ヶ須	美濃	笠松	美濃	竹ヶ鼻
美濃	關	美濃	上有知	伊勢	久居	伊勢	龜山
伊勢	東宮田	伊勢	桑名	伊賀	柘植	近江	水口
近江	草津	信濃	輕井澤	信濃	岩村田	信濃	屋代
越後	新井	攝津	伊丹	攝津	御影	攝津	茨木

郵便葉書の無効

從來郵便葉書の表面を塗抹せしものも消印を押捺すべき餘白あれば有効なりしが逓信省は左に掲げたる如く去三月廿九日の官報を以て自今之れを無効とする旨を告示せり若し之れを犯すときは必ず信書の未納税として受取人より二倍税則ち金四錢を徴せらるべし又同告示に示せる如く他の郵便物を汚損すべき虞れあるものハ差出人を郵便局に召喚の上之を返却せらるべき由今逓信省告示第百七號を見るに

墨其他のものを以て郵便葉書の表面を塗抹又は汚穢し之を郵便に差出したるときは未納税第一種郵便物として取扱ふ但し書損に依り少數の文字を塗抹したるものは仍は葉書として取扱ふ

墨者、ハ朱等を以て塗りたる郵便葉書にして他の郵便物を汚損すべきものは郵便物として取扱はず
明治二十六年三月二十九日
逓信大臣 伯爵黒田清隆

東北鐵道の設計

同鐵道の秋田以北の線路には檜山仁別の比較あり又檜山線の内にも能代港を經過するものとせざるものとありしが茲に諸鐵道會議に於て採定し第四議會の協賛を得たる檜山線の設計を聞くに其距離の土工等は左の如し

距離 福島より米澤山形秋田を経て青森に至る二百九十八哩廿六呎
土工 三百五十六万三千八百八十八坪
橋梁 二百二十ヶ所延長二万二千七百廿二呎
隧道 三十ヶ所延長二万八千五百七十四呎
停車場 四十八ヶ所

福島 庭坂 關根 米澤市 糠野目 赤湯 中山
上ノ山 山形市 天童 神町 楯岡 大石田 松形
新庄 赤松川 及位 下院内 赤澤 十文字 横手
金澤西根 大曲 神宮寺 刈野野 境 和田 秋田市
土崎港 道分 大保 一日市 鹿渡 鶴川 能代
森岡 鶴形 二ツ井 岩瀬 大館 白澤 碓ヶ岡
大崎 弘前市 藤崎 浪岡 戸門 青森港

最急勾配 十五分の一
最急曲線 十五銀半
アプト式施行區間六哩二十二銀
興築費 千五百八十五万七千六百五十八圓每一哩五万三千五百五十五圓

而して此線路中にて最急に着手すべきは青森弘前にして尙ほ板谷峠(羽前の東南隅に在り)を再測量したる都合にて此時困難なれば軌條其の他運搬上の便宜により大石田(羽前最上川の近傍)土崎(秋田近傍の沿海地)兩所より起工する筈なれども若し好都合なれば單に土崎の一方より起工すべしと云ふ

鐵道敷設後の奥羽

奥羽線の第一期に敷設する筈にて既に小川新居の両技師は青森山形の兩地方に趣むき線路の實測に着手し片端より工事に取かゝる由なれば本年中に青森弘前間山形福島間の鐵路は通すべし其他の部分も四五年を出ずして成就すると必定なり此の鐵道成就の曉には奥羽の氣運に一大變化を見るべく就中注目すべきは經濟上の點なりとす今ま聞き得たる所を報せん

土地 奥羽特に青森秋田岩手の地方は土地の割合に人口少なき地方なり統計年鑑を見ても一方里の人口千人以下に在るものは只九州の宮崎と奥羽の地方に過ぎず(北海道ハ別物なり)去れば未だ開墾せざる土地も中々多く平鹿郡の如きは平野拾數里に亘り御物能代の諸川之れを灌漑し耕作の便利ある地あるに抱いらず中央には原野打ち續きて空しく共同秣場となりて草を刈り取るに過ぎず誠に惜しき事なりとて既又同地方の有志者は之れが開墾を企て羽後の拾五野杯も過半田地と爲るに至れり只た如何せん人口割合に少なきが上文明の氣運充分に及ばざる所あり其の耕作法の如きも至つて粗大なり斯る有様なれば同地方人民の生計は割合に易くして甚しき窮乏のもの無し故に同地方の人は云へり奥羽の乞食は握り飯を食すれども東京の乞食は途上の芋の切れを拾ひて食ふものありと此の一語と同地方の生計の易きを知るに足るべし然

し鐵道一度此等の地方に達せし人口の増加も著しかるべし土地杯も減切り上騰すべし現に今日にても田地は已に二割方其の價を引き締めたり

銀貨紙幣交換所設立と計畫

聞く處によれば大阪の取引商か神戸居留外商と取引するに普通例千圓に付一圓五十錢内外の打歩を支拂ふて紙幣を銀貨に引換へざるへからざるを以て大阪の取引商は常に銀貨を携帶して神戸に赴くも之を身邊に纏ふと大抵一定の重量あれり多額の取引を爲るときは目前損失と知りつゝ紙幣を神戸に持行き打歩を拂ふて取引を済ますこと少からず其の不便不利甚しきより同地の貿易商は目下九州地方漫遊中の川田日本銀行總裁歸京の途次同地に立寄らるゝを幸ひ神戸に銀貨紙幣交換所を設立せんことを請願する等にて目下頻りに其協議中なり又大阪商業會議所も茲に見る所あり此事に關ふ州の十二日理財部會を開きたるが同部に於て決議する上は更に臨時總會の決議を経て其設立を懇請する等なりと云へり

明治二十五年の外國貿易

明治二十五年に於ける我國の外國貿易は其結果の我に利ありしとハ既に了知せらるゝ所なるべし今我大藏省主税局の編集に係る外國貿易月報に就きて二十五年一月より十二月に至る一ケ年間の輸出入品中其重要なるものを調査し左に一覽早見を製し諸氏の參考に供ふ

貨銀金

四三五七 九二七 九

貨銀金

四七五七 三八八 二二

輸 出 之 方

大關	三六二六九七四三圓	生糸	前頭	一八九六七七二圓	熨斗	同	三四六五五〇圓	粉	同	一七六四三〇圓	茶
關脇	七三三八七六八圓	綠茶	前頭	一四八〇四一四圓	陶磁器	同	三二〇八〇三圓	空	同	一七五七八五圓	刻昆布
小結	四五七一九八二圓	石炭屑石炭	前頭	一三二二八四五圓	屑	同	三〇四八八六圓	扇	同	一七五七五五圓	鱈
前頭	四四三四一七八圓	羽二重絹布類	前頭	一二七四七五五圓	樟	同	二九一七一〇圓	海參	同	一六七四四六圓	綿
前頭	四一六二七三三圓	米	前頭	一七六六八〇圓	地	同	二八五五六六圓	木	同	一五五一六二圓	麥稈サナダ
前頭	三四九四四一六圓	絹布手布	同	九八〇三〇七圓	鰯	同	二八〇九六三圓	硫	同	一三八八九四圓	玻璃器
前頭	二四九九七四三圓	生銅	同	八八八四一四圓	昆	同	二七〇四二九圓	木材、板類	同	一二六二二五圓	毛皮
前頭	二三四四一七九圓	熟銅類	同	五八一二一八圓	寒	同	二五三八七五圓	人參	同	一一八六四一圓	竹材
前頭	二二〇二〇四四圓	マツ子	同	五六四七四六圓	椎	同	二三〇八二五圓	木器	同	九一〇二七五圓	輸出品總額
			同	五四四〇二二圓	諸綿	同	二二八四三三圓	竹類器	同	七一三三六〇七九圓	輸入品總額
			同	五二八〇七五圓	漆	同	二一三五二八圓	青銅器類	同	一九七七六六七三圓	輸出超過額
			同	三八一六九四圓	鮑	同	一九九七一〇圓	屑布	同	二二八八三三七七圓	輸入金銀貨
			同	三六四三〇九圓	洋傘	同	一九三三七七圓	紙器類	同	九七三九七五三圓	輸出金銀貨
			同	三五八〇三八圓	魚油菜子油	同	一九〇二七九圓	鰹	同	一三一五四〇〇四圓	輸入金銀超過額

出入重要品早見 明治二十五年

調査役 大藏省主稅局

勸進元 大日本帝國

輸 入 之 方

大關	二〇二六六三三圓	線綿	前頭	一二九八〇一七圓	生糸(種子ノ混タル)	同	四一八四八二圓	アニングダイス	同	二二七三三〇圓	印刷料紙
關脇	七三三一九七九圓	綿織糸	前頭	一〇七三七四三圓	フラン子ル	同	三九〇一五三圓	生牛皮	同	二〇二一四二圓	置時計掛時計
小結	六七〇九二八二圓	白砂糖	前頭	一〇六二五七二圓	毛織子	同	三八六一九三圓	乾藍	同	一九九九七六圓	電線
前頭	三三三八三九八圓	石油	前頭	一〇〇一五四八圓	雜器	同	三七八三三六圓	緋金巾	同	一九六九三〇圓	綿布手巾
前頭	二八〇三三〇〇圓	赤砂糖	前頭	九〇六四六二圓	鐵釘	同	三三〇五五九圓	晒金巾	同	一八四九五八圓	麻織糸
前頭	二七二〇四四四圓	豆類	前頭	八七一七〇一圓	條鐵竿	同	三二一七五五圓	板鐵	同	一八四二九九圓	ログウード越幾斯
前頭	二四四八九〇〇圓	縮緬縵呂	同	八二四六五三圓	油槽	同	三一六五六二圓	新綿子	同	一八〇五四八圓	海綿器及同部分品類
前頭	二〇五二九〇二圓	米	同	七八二六九四圓	靴底	同	三〇二五〇二圓	羊毛	同	一七五三九七圓	乳膏及乳粉
前頭	一七二七一八六圓	生金巾	同	六四〇四一七圓	羅紗	同	三〇一七二〇圓	板亞鉛	同	一七三〇一〇圓	苛性ソーダ
			同	五七八三七四圓	綿天、鷺絨	同	二九六二五九圓	滾車同部分	同	一七〇六二八圓	紙卷烟草
			同	五二八九七三圓	ブランケット	同	二八二九九二圓	鉛	同	一六〇五六四圓	袂時計
			同	五二五六八八圓	綿子	同	二七八七三七圓	麥粉、澱粉	同	一四六二八五圓	護謨器類
			同	四三六五四五圓	更紗	同	二四一三一七圓	塊鐵	同	一三〇一一二圓	葡萄酒
			同	四二七九三三圓	毛織糸組絲	同	二二九三八四圓	鋼	同	一二六九一四圓	天竺布
									同	一一七六四七圓	包金巾
									同	一一〇一三三九圓	麥酒
									同		サリチル酸

同	四二七九三三圓	毛織糸組絲	同	二二九三八四圓	鋼	同	一一〇一三三九圓	サリチル酸
同	四三六五四五圓	更紗	同	二四一三一七圓	塊鐵	同	一一七六四七圓	包金巾
同	五二五六八八圓	綿子	同	二七八七三七圓	麥粉、澱粉	同	一四六二八五圓	護謨器類
同	五二八九七三圓	ブランケット	同	二八二九九二圓	鉛	同	一三〇一一二圓	葡萄酒
同	五七八三七四圓	綿天、鷺絨	同	二九六二五九圓	滾車同部分	同	一七〇六二八圓	紙卷烟草
同	七八二六九四圓	靴底	同	三〇二五〇二圓	羊毛	同	一七三〇一〇圓	苛性ソーダ
同	六四〇四一七圓	羅紗	同	三〇一七二〇圓	板亞鉛	同	一六〇五六四圓	袂時計
同	八二四六五三圓	油槽	同	三一六五六二圓	新綿子	同	一八〇五四八圓	海綿器及同部分品類
前頭	八七一七〇一圓	條鐵竿	同	三二一七五五圓	板鐵	同	一八四二九九圓	ログウード越幾斯
前頭	九〇六四六二圓	鐵釘	同	三三〇五五九圓	晒金巾	同	一八四九五八圓	麻織糸
前頭	一〇〇一五四八圓	雜器	同	三七八三三六圓	緋金巾	同	一九六九三〇圓	綿布手巾
前頭	一〇六二五七二圓	毛織子	同	三八六一九三圓	乾藍	同	一九九九七六圓	電線
前頭	一〇七三七四三圓	フラン子ル	同	三九〇一五三圓	生牛皮	同	二〇二一四二圓	置時計掛時計
前頭	一二九八〇一七圓	生糸(種子ノ混タル)	同	四一八四八二圓	アニングダイス	同	二二七三三〇圓	印刷料紙

流行

若葉ごろも

今は句へる花もなければ木々の若葉の色なつかしげなることわかれにも亦めでたかりけれざるの街衢の人も今日の西明日は東と打ち連れて行くや青葉の下蔭と又様々の花もあり又様々の色もありける其粧の中につき殊に昨今の意氣に叶ひしものを擧れば『即ち流行』

- ◎上等向き男小袖は一樂織の小柄よし羽織は京一樂の無地に裏純子帯は朱珍妙なり
- ◎御婦人向小袖は無論紋御召特等品よし帯は御定りの縮珍なり併し地色に好あり先づ薄色鼠なれば難なけれど花色地目移りよし羽織例の縮緬薄色紋付又ハ小紋よし裏を矢張り純子なり
- ◎令嬢向小袖は薄色の小紋にて藤色又は利久の極々パットせし色など大によし帯は蝦夷錦あるは蝦夷風の朱珍織よし
- ◎中等の誂へどなれを男小袖は系織の極おとなしき柄がよし羽織には一樂のツナギ織妙なり帯は博多の綾織を帯發せべきなり

◎婦人向小袖は京御召よし可成丈け小柄撰むべし羽織は縮緬帯は朱珍何れも少しく直段の下た向きを撰むより詮なし

◎御手輕の御好みとなれば男物にハ結城袖甲州袖などを用ゆべし羽織も同様の品にて無地の方よし帯は博多なる事論なし

◎粹人向の小袖となれば大嶋袖羽飛白がよし羽織は黒羽二重五ッ紋に華美なる緞子裏用ひて妙帯は御納戸地等の朱珍ぞよけれ

◎七八歳より十歳乃至十一歳位の小嬢達の好み序ながら記るすべしす紋羽二重紋壁紋縮緬の友染又は同品の華麗なる無地の小袖に帯は織物の少し伊達向の柄撰むべし

◎殊に記し置くべきハ總じて婦人向き裾廻しハ是迄大抵花色絹或は甲斐絹なりしが昨今は無地縮緬になくて中人中へも出られぬなど云ふ迄に至れり其色合は老若に随ひ夫々の好みあるべしと雖も素鼠薄鼠藤色今紫櫻鼠其他吟味宜しくあるべし此縮緬裾廻しは跡々の爲方も至てよけれを流行なを追ふべからずと仰せの方々も速に裾廻替なされて可然ことなり



淺みどり

筆のまにく 續 天 放 生

羽織の事

今は一般に禮服として用ゐらるゝ羽織も昔時は誠に無禮のものたりしなり抑も此羽織の始りを尋ねるに天正年中なりといへり蓋し茶人の如きものの服なりしならんか曳尾庵の我衣と名付けたる著書の中に(慶長比より心安き人に羽織の儘にて對面したり元來塵除げにて衣類汚れざる様に儉約にて心付きたるものなり何時比よりか下郎も上にも禮服の様と思ひて後の薄物の羽織を仕立或は捨綿入にもして着し袴を着して公儀を勤むる様にはありたり)云々とあり即ち其略服なりしを知るべし

風呂敷の事

近世事物考に風呂敷の説あり曰く當世風呂敷昔とは違へり昔しは物を包む切は平包と云しなり風呂敷ハ湯殿より納戸などへ出る間に敷たるものにて風呂より上り歩む中に足のしめりなど自ら此風呂敷にて拭へて座敷へ入なり

菖蒲革の事

菖蒲革之神功皇后の三韓を征し給ふ時鐘の威に準じて革を以て染めしが其始めなりとかや(勝武革と書するも又宜なる哉八幡太郎義家東征の時戦利を岩清水に祈る其時大谷(山城八幡山の麓なり)より此革を献上す云々古書にも見へたりこれ俗にいふ縁起を祝ふものなるべけれど當時珍重せしものたるに論なかるべし今や縮緬。縮。降。木綿金巾に至るまで此形を摸して染めざるなきに及べし

上下の事

足利義滿の時正月元日に内野合戦起れり殿中賀會の輩ら素襖の袖と裳をとりて事に従ひしが吉例となりて始めて上下を見るに至れり(細川頼之の爲を所なりしとかや)と云々又一説に織田右大臣公の時松永彈正これをはじむと云々何れが其確説なるや判じがたしと雖も其近代に始りしものなるを疑ふべからず

貨財の關をる文字

多くは貝偏なる事

當時は世界各國皆金銀を以て唯一の貨幣たるべき物質となせども古昔は然らずして専ら貝殻を用ひたり爲に貨財

寛保の比より平包の名と失ひて物を包む布を皆風呂敷と云なりと)又本朝世談綺の中に(元は風呂の揚り所に敷て浴衣に齎しきものなり今物を包む風呂敷は此名を借りたるものなり)云々とあり又或人より聞きたるに(室町家の時分大湯殿を建て近習の大名衆一處に入り玉ふに衣服を風呂敷に包置き湯殿を揚りて其風呂敷を銘々に解き玉ひ其上になをりて後に衣服を着す是より物を包むものを惣じて風呂敷と云ふ様にはなりぬと云々

更紗の事

更紗ハ其昔暹羅より渡りたる染物を摸して染めたるが日本更紗の始めなりとかや按ずるに更紗染(又華布とも書す)は暹羅染より變稱せられたるものなるべし

正平染の事

正平染の起りを調ぶるに近代世談に左の一節あり
肥後國八代古閑橋の邊にて染る天平革といふあり甲冑の威など用ゆる染革なり此板の中に不動の像八幡の二字或は梵字等あり天平十二年八月と記せり右神佛の形あり故土人嚮々ことを恐る征西將軍懷良親王八代高田におはせし特別板を彫しめ商賣を御免許ありしより御免革といへり此版南朝の正平六年六月一日とある故に正平革とも云是正平染のはじめなり云々

貳足三文の事

物直段を見介して安く積るを貳足三文なりとを誰しも能くいふまとなり扱此言葉は何時の頃より初りしものなるやと問ふに或る老人の曰くは寛永年間の金剛(草履のまど)の直段より初れり其頃の金剛ハ實に粗末なるものにて貳足の價三文なりしは安きものの例にひかれて即ち貳足三文とはいふに至りし云々

山師の事

身に豊なる時もなきに機を見て畫策し榮枯盛衰を一舉に賭する者を山師といふ事の起りを尋ねるに明暦万治の頃江戸に河村端軒といへる者あり彼明暦大火の起るや早くも全市中の延焼を豫想し勿卒僅々の金を懐に甲斐地方に走り諸山の木材を購入して非常の利益を得たるより此山師の稱は起れり夫より後投機的の事に従ふものを總て山師と呼ぶに至りしものなりとぞ

檀那(且那)の事

且那といふ事何時より云ひ始めけんそと詳らかならざれど既に檀那寺といふ事あり師檀の因みありといふ事など

ある處より考ふれば蓋し佛道より起りしものならんか或書にて見し事ありしに損那は梵語也唐にては施主と譯を相互に施すの義也云々考ふべし

物の悪しさを

「ヤクザ」といふ事

此品は甚だ「ヤクザ」なり上等の處はなきやなどとは誰しも能くいふ事なり此「ヤクザ」といふを舊時博徒の言葉にて普通の人の更に用ふべき言葉にあらざりしよし如何なれば悪し事事を「ヤクザ」といふと問ふに或人の咄しに博奕に三枚といふものをするに八九の數を高目上々として十とつまる數にならず八九三なれば或十に詰る故益にたゞ夫より彼輩らの内にては總て物の悪しき事の隠語を八九三々々といひ始めたなりと云々此八九三なる八九三の言葉は今や上流社會に用ひらるゝ常語となりて人これを聞かざりしとせず世の變遷に隨て言語又これに伴ふ思へば可笑き事なりと云々

問屋の事

世事談綺に曰く問屋の元來會屋と書也日本紀に神會の會より起る事也今誤て問の字を用ゆるとあり又和名邸家(津屋)の變て問屋となれるなりとの説もあり考ふべし

甲斐なしといふ事

甲斐なしといふは勞して益なき意なり竹取物語に中納言石上磨の熊の巢をわたりて子安貝を取らんとし給ふ條りに前略されと子安貝をふと握り持たせば嬉しく覺ゆるなりまづ脂燭さしてこの貝顔見んて御ぐし(頭の事)擡げて御手をひろげ給へるに燕のまり置ける古葉を握り給へるなりけり夫を見給ひてあなかひなの業やどのたまひけるよりぞ思ふに違ふことをばかひなしとはいひける貝にも非ずと見給ひけるに御心も違ひて唐櫃の蓋に入られ給ふべくもあらず御腰は折にけり云々

かくや姫聞て訪ひにやる歌

年をへて波立よらぬすみの江の

まつかひなしと聞くはままとか

とあるを讀てさかすいと弱き心地に頭擡げて人に紙

を持たせて苦しき心地に辛じて書き給ふ

かひはかくありけるものをわび果て

死ぬるいのちをすくひやはせぬ

と書き果て絶入り給ひぬ是を聞てかくや姫少し憐と

おぼしけり夫よりなん少し嬉しき事をばかひありと

いふ云ひける云々

されば此甲斐なし 甲斐あり などの言葉はいと古く云

ひ傳へたるものなるべし又甲斐性物とか甲斐く敷など

いへるは此甲斐なしといふ言葉より轉じたるものなるべし

(未完)

福利の階級

人の世に處る名利の二者より尊きり無し諸般の困苦艱難も亦た此の名譽と福利を買ふ代に外ならず近來北米合衆國が前年に較べて十倍の富利を増せしと云ふも必ならず他國人より十倍の困苦を以て業務に勉勵したる結果と云はざるべからず左に掲げ出す表は米ハウケルリアム氏の撰にして彼國の某雜誌に録したるものなるが其言洋の東西に通じて人間生涯福利を得るの階級とも見るべき者なれ果して此路に由て進む時は立身興家既に自家囊中の物と謂んも可なるべき歎幸ひに一看を賜へ

○愚者才者を論せず凡て己の目的と定めたる職業に専ら注意勉勵する者ハ此の進歩表の順序に隨て進むべし

自十一二至廿三四 (最初級)

父兄或は長者より修業費を受けて學術を勤むるか又は商估職工等の見習を爲す其勤勉と怠惰とに由り生涯の浮沈榮枯この時に於て判る

自廿三至廿六 (初級)

父兄長者より資金を受す官吏或は商工と成り各々職業に由て自己の衣食を給し得る料を生出す、交友に信あり職務に勉勵す、妻を娶らず、日夜變々怠らずして實驗の益を求む

自廿五至三十 (二級)

學術又ハ職業に怠らず能く其務に服す茲に至て衣食の外に少許の餘裕を得たり日々或は月々貯金所爲其餘金を預

け他日家を持つての豫備を爲す、自家平常の勞動或ハ心勞を慰むるが爲め日曜日には適宜の遊を爲す、妻を持たず精神病を起す注意すべし

自廿七至三十五 (三級)

茲に至て其貯金の數も現在得る所の金に殆ど十倍乃至三十倍に至り、交友或ハ長者の信用を博し又經驗に富めり妻を娶りあり或は否らざる有り、此際に病を發する者多し、又妨得の起る事多し、氣力ある者ハ此等の難事に打勝つ

自三十三至四十 (四級)

大に世人の信用を得官吏工商何を言はず自己の目的も殆ど此に堅固と爲れり此區内にて妻を娶る者多し、貯金益々増加し其生計上には更に心を勞す事無く唯事務に長ずる者と人ハ仰がれんを望む念と富を致さんと希ふに由て腦を費すのみ

自四十至五十 (五級)

多くは高明壯大の厦屋を作り益々其目的を堅固にして勉勵す、議會等に選ばるゝ者此域に在り子女を儲けて其教育の完きを望む自己より地位の下なる者愈々其德行を慕ふ、友人皆信を屬して來り勸む

自五十至六十五 (別位)

此に至ては議事員と爲り或ハ衆望に依て一の會社の長と爲る、氣力益々壯能、配下の爲に資金と精神とを貸す、衆望の歸する所此域に在り

(完)

謹告

倍々御繁榮奉賀候毎々格別之御愛顧を以而續々御用向被仰付奉感謝候就而者一層注意の上御日限の儀も可相成早目に調進可仕殊更小包郵便の便利も有之候得ば何卒引續き澤山御仕向けの程伏て奉願上候隨而爰許進々繁雜にも相成候に付兼々願出居候通り

○御紋附品は必ず御墨打の上御遣し可被下候事
但し白糸に願上候

○御定紋の儀は雛形御添を置可被下候事

○總て色抜致し御染換致し候御品と可成丈注意可仕候得共併し生地ヨワリ等はマー／＼是非もなしと御詮らめ置被下度候事

○御引解物は丈夫に御ハヌイ置可被下御引解の儘御遣しの義は御斷り申上候事

○裂々類御遣しの節は御品に不抱壹品膏繋ぎになし被下其他のはしへ幾切にて何丈何尺と御明記の御附札を置可被下候事

○模様類御注文被下候節は。模様の高さ。大きさ。縫入縫なし。紅入紅なし。等總て模様に必要なの要点を明細に御申越可被下候事

○御急ぎの御染物に限り染代の外に上下の氣車賃御拂被下度候事
右は當方の手数を相省き候様御思召も可有之候はんが折角別染に被爲遊候貴重御詠物に付〔當方にては注意の上にも注意可仕候得共〕繁雜中萬一にも寸法の相違且つ又取落し等の不調法出來候てわ恐入候次第に付前條不惡御承知被下置續々御用向奉願上候以上



市 彌

悉皆方謹言

明治廿六年五月十六日印刷
全 年全月廿七日發行

東京市日本橋區久松町一番地

編輯兼發行者 劍持定兵衛

全 市全 區久松町三番地

印刷者 西喜三郎

全 市全 區久松町一番地

印刷所 有文舎

067759-000-2

特55-615

呉服

劍持 定兵衛 / 編

M26

CDK-0050

